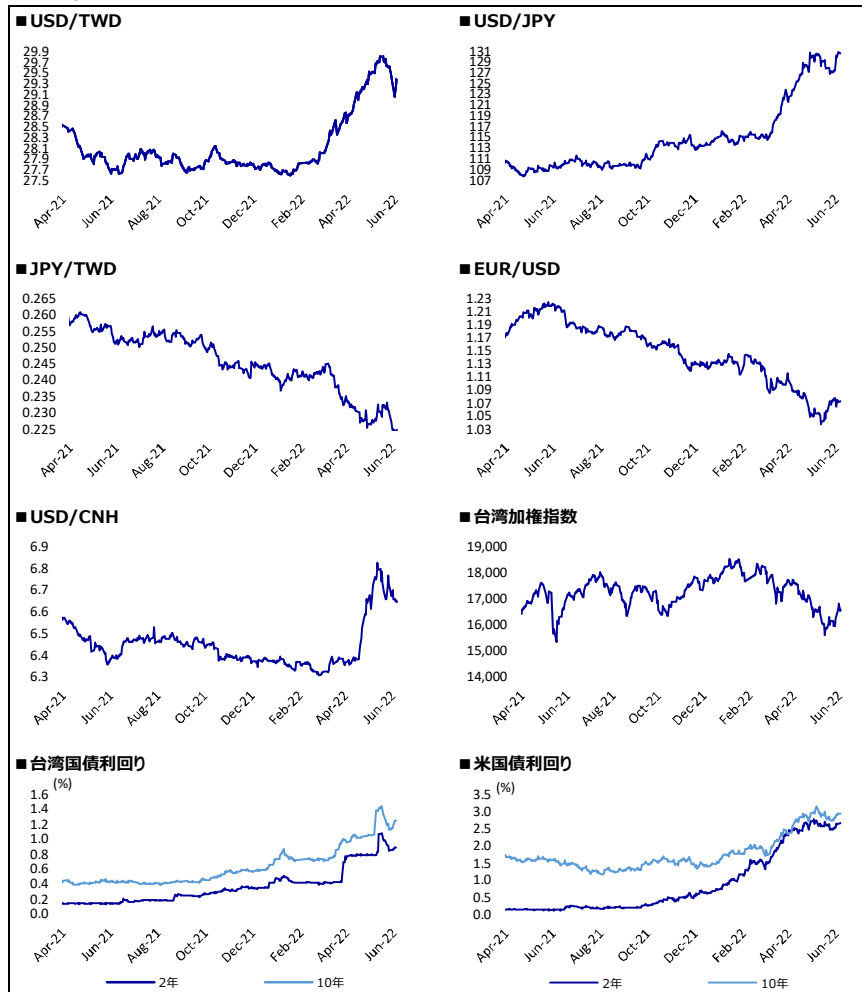


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは往って来いで上昇。週初5/30は29.340でオープン後、台湾株が大幅に上昇する中、外資の流入が拡大し、台湾ドル買いが優勢に。輸出企業のドル売りも散見され、29.1近くまで下落。5/31も台湾株高と資金流入から一時29.018まで下落したものの、節目の29.000を前に底値は堅かった。6/1は一転、台湾株を連日買い越していた外国人投資家が売り越しに転じると、台湾ドル売りが優勢になり、29.28付近まで戻した。6/2は台湾株が軟調に推移すると台湾ドルは売られ、一時29.400まで上昇。高値付近では輸出企業のドル売りも散見されたが、流れを変えるまでにはいかず、最終的に先週比0.1%ドル高台湾ドル安の29.388で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は322.5億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は大幅上昇。週初5/30は127.18でオープン後、対ユーロでのドル売りの動き等から一時126.86まで下落したが、上海のロックダウン解除の報道からリスクオンの流れに株高・資源高の展開となり、ドル円も上昇。米国休日ではあったものの127円台後半まで上昇。5/31は月末のドル買いから128円台前半まで上昇し、その後も5月シカゴPMI、5月消費者信頼感指数が予想を上回ったことから128円台後半で推移。6/1もドル買いの流れから129円台に入り、米5月ISM製造業が市場予想を上回ると米金利が上昇し、ドル円も130円台に乗せた。6/2は130円ちよどを挟んでもみ合う展開が続いたが、ADP雇用統計が予想以上に弱い結果であったことから、129円台半ばまで反落。しかし、プレイナーFRB副議長のタカ派発言を受け、129円台後半に戻した。6/3は米5月雇用統計を控える中、レンジでの推移が続いたが、発表されると非農業部門雇用者数が市場予想を上回ると米金利が上昇し、ドル円も130円台半ばまで上昇。買い一巡後は同水準で揉み合っていたが、引けにかけて再度上昇し、一時130.92をつけた。最終的に先週比2.9%ドル高円安の130.82で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：29.350-29.600
外国人投資家の動向に左右される展開が続いている。今週も株式相場を注視することにはなるが、足許、良好な米経済指標を受け、米長期金利が上昇しており、下値は堅いであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：129.00-131.50
今週は米5月CPIの発表を控えている。足許は好調な経済指標から米金利が上昇し、ドル円は堅調な推移を見せている一方、物価上昇はピークアウトしているとの見方もあり、上昇率が下がるようであれば、利上げペースを緩やかにする見込みが前倒しされるため、警戒したい。

今週の予定

6/6 (MON)	
6/7 (TUE)	台湾5月CPI、米4月貿易収支
6/8 (WED)	台湾5月貿易収支
6/9 (THU)	ECB理事会
6/10 (FRI)	米5月CPI、米6月シガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。